

# 高安詰所だより

創刊号  
立教185年  
1月20日

## ご挨拶

詰所主任 芦田孝廣

立教185年の新春を迎えました。未だ収束の気配を見せないコロナ禍ではありますが、その中にも変わることなく日々「たすけ一条」にお励みくださり、まことに「ご苦勞様でございます。

この度、12年の長きに亘



って詰所主任としてお勤め下さいました坂井光華先生が、80歳を以て勇退されましたことに伴い、届きませんが、私が後任の重責を担わせて頂くこととなりました。身に余る大任に、心の引き締まる思いであります。お与えいただいたご命を精一杯につとめ切らせていただく所存でありますので、どうぞ皆様方には今後とも変わらぬお力添え賜りますことを、心よりお願い申し上げます。

さて本年は、高安に繋がるお互いにとりましては、「教祖お入り込み140年」という大きな節目の年に当たります。「教祖に成人した姿をご覧いただきこう」を合言葉に、一人ひとりが「おたすけ」を通してこの旬に尚一層の成人に励むよう大教会よりお促しいただいています。具体的には、御恩報じの心を込めて、おちばに「真実のお供え」を仕切つて運ばせていただくこととともに、全教会で必ず一名以上の初席者を本年中にご守護が頂けるよう、真実の限りを尽くすこと、そしてお入り込みくださいました6月18日より7月25日までの「お入り込み記念期間」に、全教会から別席者を伴つての団参をするようにとのお打ち出しであります。

詰所に於きましても、お帰りくださる信者の皆様方が、おちばでゆつくりと寛いでいただき、満足してお帰りいただけますよう心を込めて各部署にて準備を進めております。

その一環として、直近のおちば、詰所、修養科生のようすを、いち早く全国の教会や信者の皆様にお伝えし、より一層の親しみを感じていただき、おちばに繋がっていただきたいの思いの上から、

この度月刊紙「詰所だより」を創刊させて頂く運びとなりました。と申しましても、何分にも拙い文章に加え、限られた紙面ですので、十分にはお伝えきれないかと思われませんが、今後、皆様のご助言を頂戴しながら、漸次改善改良して参りたいと存じますので、忌憚なきご意見をお聞かせくださいますことを願う次第であります。

コロナも安心できる状態にはありませんので、どうぞ体調には十分ご配慮いただきまして、今年もたすけ一条のご用に勇んでお励み下さいますようお願いいたします。詰所勤務者一同、皆様のお帰りを楽しみにお待ちしております。

### 詰所行事予定(2月)

- 1日 コロナ終息おねがいづとめ参拝(本部)
- 3日 詰所三区会例会(御津詰所)
- 4日 詰所常会
- 8日 勤務者習練Ⅰ(ひのきしん)
- 13日 おつとめ勉強会
- 15日 勤務者習練Ⅱ(ひのきしん)
- 15日 にいがけ実動
- 17日 直轄祭参拝(大教会)
- 25日 月例朝礼
- 26日 本部月次祭参拝者受け入れ



### 詰所の動き

坂井前主任退任 12月23日



坂井光華前詰所主任が、先月23日付けをもって退任されました。12年に及ぶ在任期間中に、専ら「詰所の中の詰所」を目指して詰所運営に尽力されました。無事務めを終えられ、退任後はこれまで同様、大教会役員としてのつとめはいうまでもなく、自教会である淡路三原分教会にもどり、前会長として部内、信者への尚一層の丹精に励みたいと、新たな抱負を述べられました。

どうぞ、いつまでもお元気でおつとめください。長い間本当にありがとうございました。



## 年末恒例餅つき 12月28日

去る12月28日、お餅つきが詰所にて行われました。コロナ感染予防の観点から、恒例の「おせち」も開催されないとのこと発表がありましたので、献納する鏡餅も例年に比べ格段に少なく、そのお陰で疲労感よりむしろ爽快感が勝り、和気藹々と楽しく年末の恒例行事を終えさせていただきました。尚、一同が心を込めて搗かせていただいた5升餅19臼は、30日に本部にお供えさせていただきました。



詰所餅つき風景

## 修養科近況（第96期） 12月～2月

女子教養掛 沓脱友紀子先生

一昨年の暮れに「立教184年12月より翌年2月末までの教養掛の不用をとめるように」とご命をいただき、早速教会家族に相談しましたところ、快く送り出してください、今日の日を迎えておりますとはいえ、昨年、日が迫るにつれて不安が募り、上級河北分教会の奥様と婦人会の面談の席で「とてもつとまる自信がない」と涙ながらに吐露したことが昔のことのように思います。その時、奥様が「またとない3カ月を楽しんで来てね」と仰ってください、「そうか、私も修養科生の一員と思つて通らせていただこう」とストンと胸に治まり、現在まさに「楽しみづくめの毎日」を送らせていただいております。

見ることに聞くこと我がこと。喜びごとは勿論のこと、たとえ一見マイナスと見えることであっても、全て自分の中にあるのだなあと想えば学ばせていただけるし、教祖にお尋ねしたいこと、お聞きいただきたいことがあれば、何度も教祖殿へ足を運ぶこともできて、こんな素晴らしい毎日は本当にまたとないと、一瞬一瞬が貴重であります。教養掛男子の先生も色々な相談に親身になって動いて下さり、大教会長様、奥様はじめ詰所の先生方にはこの上ない親心をかけていただき、勤務者の皆さんは精一杯お役をつとめておられ、引き寄せていただいた修養科生さん方も私も本当に幸せ者だなあと喜



び一杯であります。又何よりも「教祖お入り込み140周年」という大切な年の新年をここおちばで迎えさせていただいたことは、教会の親々の御賜と感謝ばかりであります。

残り半分というところです。これからまだまだどんなことが待ち受けているや分かりませんが、「こんな時なら教祖ならどう仰るだろう、どのようになさるのかな」と素直に親に凭れて通らせていただきたいと思います。

### 修養科予定（2月）

- 26日 第966期生 総合まなび  
27日 第966期生 修了式、第969期生 志願者の集い  
28日 第966期生 よふぼく門出式（大教会）



「た姿を親神様にご覧いただきます。修養科入科当初は、おてふりも鳴り物も殆どできなかった方が見違えるほど立派につとめられる姿を、お導き下さいました教会の皆さんやご家族の皆さん方にもご覧いただき、共々に門出を祝っていただきたいと思っております。是非ご参観くださいますようお願い申し上げます。

### 編集後記

年が明けたと思ったらもう20日。時間ばかりがどんどん過ぎていって、中々追いつけない。こんな風に一年が過ぎていくのかと思うと、さすがに考えてしまう。特に今年は「教祖お入り込み140年」の大切な旬。うかうかと過ごしてしまえば、一生の後悔になる。気を引き締め直し、「成人した姿」を教祖にご覧いただけるよう、たすけ一条に邁進したい。

創刊号ということで、少々力みすぎた感もあるが、これからもおちば、詰所、そして修養科生のようなすをできる限りつぶさに、全国の教会や信者様方にいち早くお届けしていきたい。「詰所だより」を楽しみにしていただけるような紙面作りに励みたいので、皆様の希望や提案をどしどしお寄せいただけることを切に望む。

### 「よふぼく門出式」（大教会）

修養科三カ月の集大成となる第966期生「よふぼく門出式」が、来る2月28日、大教会神殿にて行われ、おつとめ奉仕者として成人し



発行 天理教高安大教会信者詰所

発行者 芦田孝廣

印刷 天理市守目堂町二五五番地